

「次世代への飛躍 輝け!ちば元気プラン」における指標 (62の社会目標)

政策分野・指標名	現状	目標
I 社会		
1 自助・共助・公助が連携した防災先進県づくり		
・自主防災組織の活動カバー率	60.2% (28年度)	81.0% (32年度)
・災害対策コーディネーターの登録者数	974人 (28年度)	1,230人 (32年度)
・防災拠点となる公共施設等の耐震化率	93.4% (27年度)	100% (32年度)
・災害時の緊急輸送に資する高規格幹線道路の整備率	89% (28年度)	93% (32年度)
・市町村の業務継続計画策定率	50% (28年度)	100% (32年度)
2 暮らしの安全・安心を実感できる社会づくり		
・刑法犯認知件数	57,277件 (28年)	減少を目標 (32年)
・自主防犯団体の数	2,606団体 (28年)	増加を目標 (32年)
・交通事故死傷者数	22,581人 (28年)	18,000人以下 (32年)
・交通事故24時間死者数	185人 (28年)	150人以下 (32年)
・不当な契約等により消費者被害を受けた県民の数	10,704人 (28年度)	10,000人未満 (32年度)
3 健やかで生き生きと自分らしく暮らせる社会づくり		
・地域の医療体制に安心を感じている県民の割合	61.9% (28年度)	66.0% (32年度)
・心臓停止状態で見つかった者(心原性、目撃者あり)の1か月後の生存率	13.5% (27年)	20.0% (32年)
・健康づくりに取り組む環境にあると感じている県民の割合	51.7% (28年度)	60.0% (32年度)
・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合	男性44.6%女性14.8% (27年度)	男性33.2%女性13.0% (32年度)
・高齢者施策について満足している県民の割合	18.0% (28年度)	35.0% (32年度)
・地域包括支援センターの設置数	196箇所 (28年度)	220箇所 (32年度)
・「共生社会」という考え方を知っている県民の割合	未調査 (28年度)	50.0% (32年度)
・ボランティア活動に参加したことのある県民の割合	35.6% (28年度)	40.0% (32年度)
4 文化とスポーツで輝く社会づくり		
・この1年間に文化芸術にふれた県民の割合	63.4% (28年度)	70.0% (32年度)
・成人の週1回以上のスポーツ実施率	46.5% (28年度)	60.0% (32年度)
5 みんなで守り育てる環境づくり		
・千葉県における二酸化炭素排出量	76,228千t (25年度)	減少を目標 (32年度)
・世帯当たりの電気・ガスの使用等に伴う二酸化炭素排出量	3.45t (25年度)	減少を目標 (32年度)
・一人1日当たりの家庭系ごみの排出量	523グラム (27年度)	500グラム (32年度)
・産業廃棄物の再資源化率	54.4% (26年度)	61.0% (32年度)
・産業廃棄物の最終処分量	28.7万t (26年度)	31.0万t (32年度)
・光化学スモッグ注意報の年間発令日数	11日 (25~28年度の平均)	削減を目標 (32年度)
・河川・湖沼・海域の水質環境基準達成率(BOD・COD)	74.1% (27年度)	80.0% (32年度)
・イノシシの捕獲数	22,574頭 (27年度)	増加を目標 (32年度)
・カミツキガメの生息数	約16,000頭 (27年度)	減少を目標 (32年度)
II 子育て		
1 子どもと子育て世代への強力サポート体制づくり		
・子どもを子育てやすいと感じる家庭の割合	77.2% (28年度)	80.0%以上 (32年度)
・子育て世代包括支援センターを設置した市町村数	11市町村 (28年度)	全市町村 (32年度)

政策分野・指標名	現状	目標
II 子育て		
・保育所等の待機児童数	1,787人 (29年4月1日現在)	解消を目標 (33年4月1日現在)
・1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査の未受診児の状況把握	1歳6か月 74.9% 3歳 84.5% (27年度)	1歳6か月 100% 3歳 100% (32年度)
2 世界に通じ未来を支える人づくり		
・学習指導に満足している保護者の割合	80.7% (28年度)	増加を目標 (32年度)
・小学校における体力テストの平均点	49.3点 (28年度)	50.0点 (32年度)
・公立学校の英語教員の英検準1級等取得率	中31.5%高46.1% (28年度)	中50.0%高75.0% (32年度)
・子どもの規範意識や協調性に満足している保護者の割合	87.5% (28年度)	増加を目標 (32年度)
・私立学校における教員一人当たりの生徒等の数	17.8人 (28年度)	減少を目標 (32年度)
・地域人材を講師に招いて授業を行った学校の割合	小75.2%中52.4% (28年度)	小80.0%中61.2% (32年度)
・幼・小・中・高等学校の個別の教育支援計画作成率	92.9% (28年度)	97.7% (32年度)
・学校・家庭・地域が連携していると考えられる保護者の割合	85.2% (28年度)	増加を目標 (32年度)
・教育課題について語り合う集会を地域住民と連携して企画運営している学校の割合	66.7% (28年度)	72.0% (32年度)
・公立高等学校における不登校・中途退学生徒の割合	不登校 2.5% 中途退学 1.2% (27年度)	減少を目標 (32年度)
・青少年のネット被害防止対策(ネット/トラブル)を実施している市町村数	4市町村 (28年度)	12市町村 (32年度)
III 経済		
1 国内外の多くの人々が集う魅力ある県づくり		
・観光入込客数	1億7,370.5万人 (27年)	1億9,000万人 (32年)
・宿泊客数	1,755.3万人 (27年)	2,000万人 (32年)
・国際交流・協力活動を展開している団体数	176団体 (28年度)	194団体 (32年度)
2 挑戦し続ける産業づくり		
・県内製造品出荷額等	13兆8,743億円 (26年)	増加を目標 (32年)
・県内への企業立地件数	54件 (25年~28年平均)	200件 (29年~32年の合計)
・県内年間商品販売額	10兆6,258億円 (26年)	増加を目標 (32年)
3 経済の活性化を支える人づくり		
・30歳代後半(35歳~39歳)女性の有業率	差 8.2%以下 1.3% (24年)	差 8.2%以下 (32年)
・県の審議会等における女性委員割合	29.1% (28年度)	40.0% (32年度)
・若年者の就労支援施設を通じて就職した正規雇用者の割合	41.9% (25~28年度平均)	増加を目標 (29~32年度平均)
・女性・中高年齢者の就労支援施設を通じた就職者の割合	13.1% (25~28年度平均)	増加を目標 (29~32年度平均)
4 豊かな生活を支える食と緑づくり		
・農業産出額	全国4位 4,148億円 (27年)	全国2位 4,500億円 (32年)
・漁業・養殖業の県内漁港への水揚げ金額	全国4位 503億円 (26年)(27年)	全国3位 560億円 (32年)
・農業・漁業生産関連事業の年間総販売金額	680億円 (26年度)	830億円 (32年度)
5 活力ある県土の基盤づくり		
・県都1時間構想達成率	73% (28年度)	76% (32年度)
・成田空港の航空旅客数	3,962万人 (28年度)	4,600万人 (32年度)
・下水道処理人口普及率	72.8% (27年度)	76.9% (32年度)
・立地適正化計画作成市町村数	2市町村 (28年度)	15市町村 (32年度)
・主要駅のエレベーター等の設置による段差解消割合	94.9% (28年度)	100% (32年度)

千葉県総合計画 次世代への飛躍 輝け!ちば元気プラン 概要版

平成30年2月発行 千葉県 総合企画部政策企画課
TEL.043-223-2483

総合計画の本編はホームページに掲載しているほか、
県立・市町村立図書館や県文書館、
県内各地域振興事務所でもご覧いただけます。
<http://chiba-genkiplan.jp>



CHIBA

次世代への飛躍 輝け! ちば元気プラン

千葉県総合計画 概要版

千葉県 CHIBA

次世代が誇れる輝く千葉へ 更なる飛躍を!

我が国の経済は、緩やかな回復基調が続き、有効求人倍率も高水準を維持しています。また、訪日外国人観光客は2,000万人を突破するなど、経済情勢は総じて好調に推移しています。

その一方で、少子高齢化は一段と進み、2025年には本県の高齢化率は30%を超え、人口も中長期的には減少していくと考えられ、これまで経験したことのない人口減少に直面することになります。

そこで、今後人口減少社会を迎える中であっても、未来の千葉県を担う次世代の若者や子どもたちが誇れるような、光り輝く千葉県に更に飛躍するため、「次世代への飛躍 輝け!ちば元気プラン」を策定いたしました。

この計画に基づき、交流基盤・ネットワークの活用や国内外への魅力発信に努めつつ、急激な人口減少や少子高齢化への対応を図り、県民の皆様が生き生きと活躍できる社会を目指してまいります。



千葉県
マスコットキャラクター
「チーバくん」

総合計画のページ

総合計画って?

▶ 県政運営の基本となるもので、千葉県の政策の基本的な方向を、総合的・体系的にまとめた県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画です。

千葉県が目指すものは?

▶ 総合計画では以下の通り、基本理念として、「暮らし満足度日本一」を掲げています。

**総合計画の
基本理念** 千葉は元気の発信源。首都圏、そして日本をリードし、
県民が「**暮らし満足度日本一**」を感じ、誇れる千葉を実現します。

「暮らし満足度日本一」とは… 千葉の可能性を最大限に生かし、県民のみなさんと共にチームスピリットで、暮らし、医療・福祉・健康、自然環境、子育て、教育、観光、経済、まちづくりなどの各分野で日本一を目指す県政運営を行うことで、県民のみなさんが、日本で一番暮らしやすいと感じ、「千葉で生まれてよかった」「住んでよかった」「働いてよかった」と誇りに思える千葉県を実現する、という理念です。

計画の構成は?

▶ 「基本構想編」と「実施計画編」で構成しています。

具体的には…
県内にずっと住み続けたい
県民の割合が
平成32年度(2020年度)
において85%を超えることを
目指します。

●基本構想編

基本理念の実現に向けて、以下の3つの基本目標を設け、これに沿って千葉県が目指す姿を示しています。

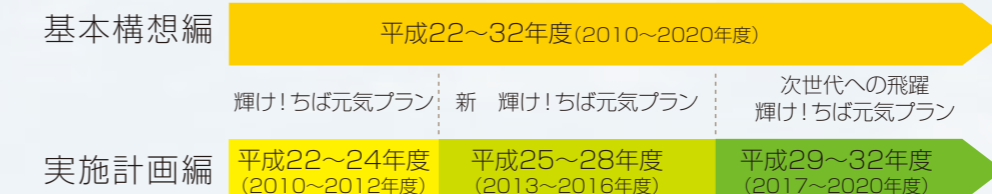
基本目標I	基本目標II	基本目標III
安全で豊かな くらしの実現	千葉の未来を担う 子どもの育成	経済の活性化と 交流基盤の整備

●実施計画編

3つの基本目標の元に、4年間で重点的に取り組む施策・取組などを、12の分野ごとにまとめています。

計画の期間は?

▶ 「基本構想編」は当初計画策定時の平成22年度から平成32年度までのおおむね10年間。「実施計画編」は平成29年度から平成32年度までの4年間です。



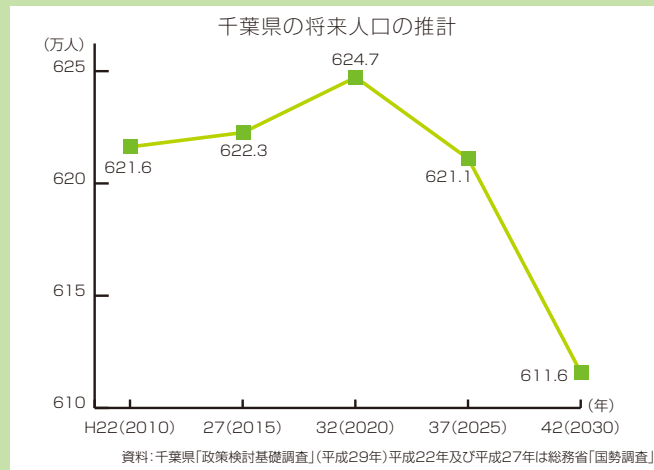
くらし
満足度
日本一

県の時代背景と課題

千葉県が将来目指すべき姿とその実現に向けた政策の基本方向を定めるため、県をとりまく時代背景と課題を次の10の視点で整理しています。

特に、県人口については、将来人口推計の結果、平成27年(2015年)の622万3千人から、本計画の目標年度である平成32年(2020年)には624万7千人となりますが、その後は減少傾向に転じ、平成42年(2030年)には611万6千人まで減少する見込みとなりました。そのため、本計画期間においては、目前に迫る人口減少社会に備えつつも、更なる県の飛躍を目指し、施策を展開していかなければなりません。

- ①人口減少・少子高齢化
- ②大規模災害等を見据えた防災・危機管理
- ③経済・社会のグローバル化
- ④安全・安心・治安
- ⑤環境保全・持続可能性
- ⑥価値観やライフスタイルの多様化
- ⑦ICTの進展とIoT・AIなどの普及
- ⑧広域道路ネットワークの形成
- ⑨2020年東京オリンピック・パラリンピック開催
- ⑩地方財政・地方分権



県づくりの方向性～特性・可能性を踏まえた5つのゾーン

地域の特性・可能性を踏まえた5つのゾーンを設定し、それぞれの地域の主な方向性を示しています。

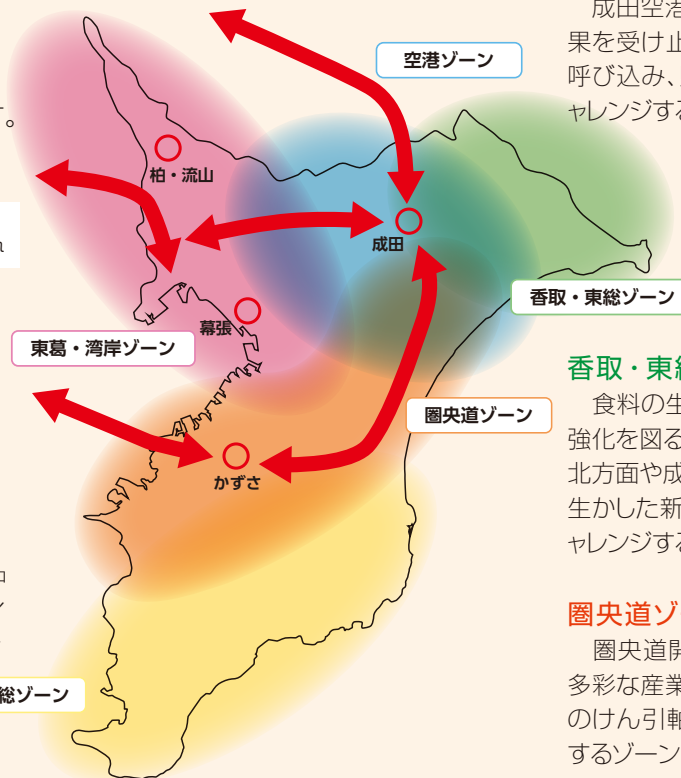
- これまで整備を進めてきた4つの拠点
- ➡ 新たな交流軸を中心とした人・モノ・財の流れ

東葛・湾岸ゾーン

うるおいとにぎわいの都市空間の中で様々な世代が生き生きと活動する、創造と再生のまちづくりにチャレンジするゾーン

南房総ゾーン

海と緑のやすらぎの空間の中で、充実した多様なライフスタイルの提供にチャレンジするゾーン



空港ゾーン

成田空港の機能拡充による効果を受け止め、国内外の活力を呼び込み、県経済の活性化にチャレンジするゾーン

香取・東総ゾーン

食料の生産拠点としての機能強化を図るとともに、北関東・東北方面や成田空港への近接性を生かした新たな発展可能性にチャレンジするゾーン

圏央道ゾーン

圏央道開通効果を取り込み、多彩な産業展開により本県経済のけん引軸の形成にチャレンジするゾーン

将来の千葉県は?

3つの基本目標と目指す姿

基本理念「暮らし満足度日本一」の実現に向け、「暮らし」「子ども」「経済」というキーワードに着目し、次のとおり3つの基本目標を設定しました。これに沿って、当初計画策定時の平成22年度(2010年度)から、おおむね10年後、平成32年度(2020年度)の千葉県の具体的な目指す姿を示しています。

基本目標Ⅰ

安全で豊かな
暮らし
の実現

<目指す姿>

- 1 自助・共助・公助でつくる災害に強く様々な危機に対応できる地域社会
- 2 治安が行き届き、安全で安心して暮らせる地域社会
- 3 健康で生き生き暮らせる地域社会
- 4 心豊かに元気に暮らせる地域社会
- 5 豊かな自然を継承し、持続的に発展できる地域社会

基本目標Ⅱ

千葉の未来を担う
子ども
の育成

<目指す姿>

- 1 安心して子どもを産み育てられる地域社会
- 2 郷土を愛し自立した健康な子どもの育成

基本目標Ⅲ

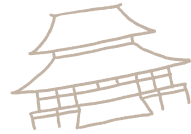
経済
の活性化と
交流基盤の整備

<目指す姿>

- 1 国内外の多くの人々が集う魅力ある地域社会
- 2 挑戦し成長し続ける産業
- 3 働く希望や多様な働き方がかなう社会
- 4 地域を支える力強い農林水産業
- 5 誰もが住みたくなるようなまちづくり

重点的な施策・取組(実施計画編)

3つの基本目標と
目指す姿に向けて
どんなことをするの？



基本目標Ⅰ

安全で豊かな くらしの実現

1 自助・共助・公助が連携した 防災先進県づくり

自治体が行う「公助」はもとより、自ら守る「自助」、地域で助け合う「共助」が一体となり、地域防災力の向上を図るとともに、大規模災害時の体制強化や災害に強い社会資本の整備などを進めます。



地域の自主防災組織の訓練



橋梁の耐震補強

2 くらしの安全・安心を 実感できる社会づくり

犯罪が起りにくく、交通事故に遭わない、くらしの安全・安心を実感できる社会づくりを進めます。



地域の安全を守る防犯ボックス



子どもたちの自転車安全教室

3 健やかで生き生きと 自分らしく暮らせる社会づくり

地域の医療・福祉体制の整備や、地域内外の多様な主体が地域を支える仕組みづくりの促進などを図ります。



在宅医療の推進



コミュニティーソーシャルワーカーの育成

4 文化とスポーツで輝く社会づくり

千葉県の文化にふれ親しみ環境づくりやスポーツ環境の整備を推進します。



県民の日行事の開催



アクアラインマラソン

5 みんなで守り育てる環境づくり

低炭素社会・循環型社会の実現や自然との共生に向けて、一人ひとりの意識の向上を図るとともに、環境への負荷を軽減する取組を進めます。



CO₂の削減に取り組むCO₂スマート宣言事業所登録制度のマーク



特定外来生物の防除(カミツキガメ)

★次世代につなぐ輝くちばへのチャレンジ★

①急激な人口減少・少子化への歯止め ②超高齢社会への対応

③交流基盤・ネットワークの整備・活用 ④国内外への魅力発信

実施計画編における各施策等の実施に当たっては、将来を見据えたこれら4つの視点に留意することで、県民みんなの活躍につなげます。

基本目標Ⅲ

経済の活性化と 交流基盤の整備

1 国内外の多くの人々が集う 魅力ある県づくり

交流人口の増加や移住定住の促進を図るとともに、国内外の誰もが過ごしやすい住みやすい魅力ある県づくりを進めます。



海外に向けたプロモーション(台北国際旅行博)



県内市町村の居住地としての魅力を発信する電子ブック「ちよどいい千葉」

2 挑戦し続ける産業づくり

新事業・新産業の創出や、起業などを促進するとともに、中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化や戦略的な企業誘致を推進します。



知事による企業誘致セミナー



起業家応援イベントの開催

3 経済の活性化を支える人づくり

産業人材の確保・育成に努めるとともに、女性や高齢者などあらゆる人々が、自らの希望に応じて活躍できる社会づくりを進めます。



女性活躍推進のための民間団体との連携による会議



県ジョブサポートセンターでの就労相談

4 豊かな生活を支える食と緑づくり

戦略的な販路開拓やICT(情報通信技術)の活用などによる競争力強化とともに、高付加価値型・高収益型農林水産業への転換を促進し、「農林水産王国・千葉」を実現します。



ちばの農林水産物



耕作放棄地と有害鳥獣被害への対策強化

5 活力ある県土の基盤づくり

鉄道網、道路網、港湾の整備等を通じて、利便性向上や県内外との交流の活性化を図るとともに、成田空港のさらなる利用拡大を促進し、県経済の活性化を図ります。



道路ネットワークの有効活用(東京湾アクアラインと海ほたる)



空港を活用した県経済の活性化(成田国際空港)提供:成田国際空港(株)

基本目標Ⅱ

千葉の未来を担う子どもの育成

1 子どもと子育て世代への 強力サポート体制づくり

待機児童の解消に向けた保育所整備などの促進や、子育てに関するさまざまなサービスの提供を促進するとともに、地域社会全体で子育てを支援する体制づくりを進めます。



ちば保育士・保育所支援センター



待機児童の解消へ・保育園で元気に遊ぶ子どもたち(千葉市・今井保育園)

2 世界に通じ未来支える人づくり

思いやりのある豊かな心と元気で健やかな体を持ち、責任ある行動と自己表現ができる子どもや若者を育てるため、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、連携した取組を進めていきます。



小学校での英語活動



県内各地で開催される親同士の学び合いの場

一計画の効果的かつ

着実な推進のために一

総合計画の推進に当たり、県民の皆様と共有し、力を合わせて実現を目指すべき指標を掲げています(裏面の一覧を参照)。

また、計画や目標を定め(Plan)、施策や取組を実施(Do)し、評価(Check)に基づく改善(Action)を次の施策展開へ反映させるというPDCAサイクルを通じて、計画の効果的かつ着実な推進を図ります。

